

図書館エッセイ

# 「泉にふれて」

尾鷲市立図書館協議会委員 尾崎 史麻

その泉は大正初期、愛知県半田にて湧き出た。

半田市民でなくとも、子どもの頃、その泉の水にふれた人は多いに違いない。ほとりに彼岸花が咲き、いたずら好きの狐がやってくる泉。指先を浸した覚えのない人も、近くを通り過ぎたことが一度くらいあるのではないだろうか。泉に自分の顔を映した人、泉に癒された人、泉のそばで語り合ったことがあるのに、そのことをすっかり忘れてしまっている人もいるかもしれない。

先日、私は久しぶりにその泉の清浄な水を掬って、顔を洗った。記憶していた泉の水はもっと温かだったが、今回は季節のせい、驚くほど澄んだ水の凜とした冷たさが、強く深く心に沁みた。

「たしか、半田市出身」

「彼」に関してこのことだけを覚えていた。宮沢賢治や金子みすゞは顔写真まで浮かんでくるのに、「彼」の風貌はまったく知らない。漠然と「おじいさん」の像が頭に浮かんでいた。この冬ふと思い立ち、「彼」の作品を読み返してみ、あらためて「作者」のことをもっと知りたいと思った。そして、知った。「おじいさん」ではなく、29歳でこの世を去った「青年」であったことを。「ごんぎつね」を書いたのは十代後半であったということ。

忘れられない童話「でんでんむしのかなしみ」を書いた、この青年の人生をより詳しく知りたくて、休日に彼の作品の原風景をとどめる半田市へ赴いた。車を降りた瞬間、強い風が吹いた。上着を必要とする寒さを快く受け止めながら進むと、ほどなく目的の場所に着いた。昭和55年以降、どの小学校の教科書にも掲載されている「ごんぎつね」。その舞台に建つ「新美南吉記念館」は、波状にうねった屋根を持つ、半地下式のユニークな建物で、魅力ある展示と充実した図書スペースがあり、見応え十分だった。

さて、私が顔を洗った泉だが、半田市の風光明媚な名所ではない。実はその泉はもとから目に見えない。見えないけれども、令和の今も存在している。そこは南吉の創作の源泉、彼の心の中の「泉」なのだ。南吉は詩人でもあった。彼は望みを詩に書いた。「この泉の水を汲んでくれ」と。

作品に久しくふれていない方にはぜひ、新美南吉の「心の泉」への再訪をおすすめしたい。泉への小道が見えづらくても、知らぬ間に点ったランプの青やかな灯が、きっとあなたを導いてくれるだろう。



# 寿文庫の受付が始まりました

1月5日から毎年恒例の「寿文庫」活動が始まりました。今年も皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

期間：2024年1月5日(金)～3月12日(火)

上記の期間中、図書館窓口で受付しています。初午(2月12日)のころには尾鷲神社をはじめ、市内のお寺にも協力箱を設置しています。詳しくは図書館にお問い合わせ下さい。

# 図書館蔵書点検のお知らせ

期間：2024年2月26日(月)～3月4日(月)

期間中は休館となります。ご理解とご協力をお願いいたします。

1月						
月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月						
月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

■は休館日、■は祝日(午後5時まで)

おはなし会の予定

★おはなしだっこ【0・1・2歳対象】  
毎月第1木曜日 10:30～11:00

★おはなしのひろば【幼児対象】  
毎週土曜日 11:00～11:30  
(ただし第5週はお休みです)

3月						
月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

3/2おはなしのひろばは蔵書点検のためお休みです

尾鷲市立図書館 (〒519-3616 三重県尾鷲市中村町 10-41)

開館時間 火～金 9:30～19:00 / 土日祝 9:30～17:00

休館日 月曜日・月末 ※月曜日が祝日の場合は翌日休館

年末年始・蔵書点検期間 月末が土日の場合は直前の金曜日休館

電話番号 0597-23-8282 FAX 0597-23-8283

図書館 HP <https://ilisod003.apsel.jp/owase-library/>



図書館だより 2023-3号

# つみくさ



なんでやねん

ご当地感満載!

ソレとつとー?

# 方言小説

かいだりー

だっちゃ!

日本によ一けある方言。タイプ別にしたらまあ大体16種類に分けられるんやってさー。今回は、登場人物らあが方言でしゃべりよる小説を中心に紹介してくわいー。

(訳:日本に数多くある方言。タイプ別にするると約16種類に分かれるといわれています。今回は、登場人物たちが方言で話している小説を中心に紹介します)

## 尾鷲が舞台!

「灯りの島」伊吹 有喜//著 (『小説新潮』にて連載中)

昭和19年4月。尾鷲で暮らす少女ハナは、尾鷲湾に停泊している軍艦「駒橋」乗組員の海軍将校・穂村と出会う。二人はお互いに惹かれ合うが、東南海地震に戦争の激化など、過酷な運命が二人に降りかかっていく。当時の尾鷲の様子や空襲の被害など実際に現地へ足を運んで取材され、とても詳細に調べて書かれています。尾鷲弁も満載です!

『神去なあなあ日常』

三浦 しをん//著 (徳間書店)



津市美杉村

高校卒業と同時に平野勇気が放り込まれたのは、三重県の山奥にある神去村。チェーンソー片手に山仕事を始めるものの、先輩の鉄拳、ダニやヒルの襲来、さらに村には秘密が…。林業にゆる～くかける青春物語。執筆当時、なんと尾鷲も取材をお受けしました!

### 《目次》

- ・ご当地感満載! 方言小説
- ・図書館利用者さんの「これ読んでみまー!」
- ・図書館エッセイ…尾崎史麻さん
- ・ご当地・方言小説
- ・2023 貸出ランキング
- ・寿文庫の受付が始まりました
- ・蔵書点検のお知らせ/カレンダー



図書館利用者さんの

これ読んでみいませー!



『みずとはなんじゃ?』  
かこ さとし//作、鈴木 まもる//絵 (小峰書店)  
朝、顔を洗ったり、うがいをする「みず」。花や植木の根本に注いでやる「みず」。水は一体どんなものなのでしょう。水をとおして共生の大切さを伝える、かこさとしさん最後の絵本です。

水の役割をととてもわかりやすく説明してくれています。「水ってそんなこともしてくれていたのか!」という驚きとともに、水の大切さに改めて気づかせてくれる1冊でした。あたたかいタッチの絵も、とても魅力的です。

天ちゃんさん (30代・女性)



『成瀬は天下を取りに行く』  
宮島 未奈//著 (新潮社刊)  
中2の夏休みの始まりに、幼馴染の成瀬がまた変なことを言い出した。コロナ禍、閉店を控える西武大津店に毎日通い、テレビ中継に映るといふ。さらにはM-1に挑み、実験のため坊主頭に…。未だかつてない主人公による、青春小説です。

久しぶりに本を読みながら声を出して笑いました。時にウルツときたりも。成瀬みたいな友達、私の側にもいたかなあ? ぜひ中高生に読んでもらいたいです!! その昔、学生の皆さんにもぜひ!!

その昔のJKさん (50代・女性)



『動物農場』ジョージ・オーウェル//著、金原 瑞人//訳、  
カントン・グレバン//画 (パイインターナショナル)  
人間にしいたげられてきた動物たちが、運命に立ち向かうが…。ソビエト連邦の歴史をモデルに、ジョージ・オーウェルが皮肉をこめて描いた動物物語。金原瑞人による新訳版に、美しい挿画を付す。

これって、ソ連の歴史がテーマらしいけど、私たちの社会にもあてはまるんじゃないか…  
面白いし、恐ろしい、美しい挿画も物語の進行とともに違って見えてきます。長い話じゃないので、一晩で読んじゃいました。

glass manさん (50代・男性)

ご当地・方言小説

紹介している本はすべて図書館所蔵本です。貸出・予約ができます。

岡山

『バッテリー』全6巻 (小学館)  
あさの あつこ//作 佐藤 真紀子//絵  
岡山県に引っ越してきた中学生の原田巧は、天才的なピッチャーの才能ゆえに他者を切り捨ててきた。だが同級生の永倉豪にバッテリーを組むことを熱望され、巧の運命が動き出す。多感な時期を野球に明け暮れて過ごす少年たちを、生き生きと描き出した話題作です。



福岡

『水神』上・下  
帚木 蓬生//著 (新潮社刊)  
江戸時代の九州、悠然と流れる筑後川の水は一滴も村に流れてこなかった。稲田の湯水に苦しむ百姓のため、助左衛門はこの大河を堰き止める大工事を構想する…。新田次郎文学賞受賞作です。



京都

『鴨川食堂』  
柏井 壽//著 (小学館)  
京都・東本願寺の近くにある食堂。そこでは、昔に食べた思い出の味を、少しの手がかりから再現してくれるという。寂しさも辛さも吹き飛ばし、お腹も空いてくる京都お料理小説。



新潟

『いつかパラソルの下で』  
森 絵都//著 (KADOKAWA/角川文庫)  
厳格な父に嫌気がさし、成人を機に家を飛び出した柏原野々。その父も死んで法要を迎える頃、生前の父を知る女性から連絡が入り、柏原家にとって驚天動地の一大事を知ること。真偽を確かめるため、父の足跡を辿ると…。心温まる物語。



『壬生義士伝』上・下  
浅田 次郎//著 (文藝春秋)  
時は幕末。鳥羽伏見の戦の夜に、満身創痍の吉村貫一郎が北浜の南部藩蔵屋敷に辿り着く。脱藩して新選組隊士となった吉村には切腹が命じられて一。新選組として「義」を貫いた男の生涯を描く。

青森・岩手

岩手

『銀河鉄道の父』  
門井 慶喜//著 (講談社)

岩手をイーハトヴにし、銀河に鉄道を走らせた宮沢賢治。生涯夢を追いつけた賢治と、父でありすぎた父・政次郎との対立と慈愛の月日を、父の視点から描く。第158回直木賞受賞作。



『ひよっこ』上・下  
岡田 恵和//作 国井 桂//パライ (NHK出版)

昭和39年。奥茨城村の農家の娘・みね子は、父が東京へ出稼ぎに行ったまま姿を消したことをきっかけに、高校を卒業後、集団就職で上京を決意する。果たして父は見つかるのか。NHK連続テレビ小説のノベライズです。



三重

『KUHANA! (クハナ)』  
秦 建日子//著 (河出書房新社)

三重県桑名市の廃校寸前の小学校に、ジャズ馬鹿の先生がやってきた。ジャズ部を作った子ども達は慣れない楽器に悪戦苦闘しながら、ジャズの楽しさに目覚めていく。笑って泣ける青春ローカル小説です。



茨城

高知

『県庁おもてなし課』  
有川 浩//著 (角川書店)

とある県庁に突如生まれた新部署「おもてなし課」。若手職員の掛水は地元出身の人気作家に観光特使を依頼するが…。悩みながらも、ふるさとに元気を取り戻すべく奮闘する掛水の観光エンターテインメント小説。



2023貸出ランキング(2023年1~12月)

小説

- 1位 『審議官』 今野 敏//著 (新潮社)
- 2位 『署長シンドローム』 今野 敏//著 (講談社)
- 3位 『風の値段』 堂場 瞬一//著 (小学館)

実用書

- 1位 まっぴる『京都'24』 (昭文社)
- 2位 『ジェイソン流お金の増やし方』  
厚切りジェイソン//著 (ぴあ)
- 3位 『からだがよろこぶ副菜』  
齋藤 菜々子//著 (誠文堂新光社)

児童

- 1位 『ぼくのトイレ』  
鈴木 のりたけ//作 絵 (PHP 研究所)
- 2位 『ノラネコくんだんうみのたび』  
工藤 ノリコ//著 (白泉社)
- 3位 『ポケモンサン&ムーン  
ぜんこく全キャラ大図鑑』上 (小学館)